

# 業 務 委 託 特 記 仕 様 書

## (漏水調査業務)

### 第 1 章 総則

#### 第 1 条 適用範囲

この仕様書は、山口市上下水道局水道整備課が発注する上水道施設の漏水調査業務に適用する。

#### 第 2 条 目的

別に行う衛星画像解析による漏水調査業務（以下、別業務という。）で特定した送・配・給水管路の漏水及び漏水の疑いがある区域について音聴等による漏水調査を実施することにより、漏水の早期発見修理による有収率の維持、給水を受ける者への安定供給、及び道路陥没事故の未然防止を図ることを目的とする。

#### 第 3 条 受注者の業務

受注者は、業務の履行にあたっては、諸法令を遵守するとともに、業務の意図及び目的を十分理解した上、最高の技術を発揮しなければならない。

#### 第 4 条 指示、承諾及び協議等

- 1) 監督員と受注者は、漏水調査業務の遂行上必要な事項については書面をもって行うものとする。
- 2) 受注者は、業務の実施にあたり疑義が生じたときは、監督員と協議の上、解決するものとする。

#### 第 5 条 法令の遵守

業務の履行にあたり、水道法その他、労働関連法令、その他関係法令を遵守しなければならない。

#### 第 6 条 資料等の貸与

- 1) 発注者は、受注者に下記の資料等を貸与する。

－貸与品－

- (1) 身分証明書
- (2) 上下水道局腕章
- (3) 住宅地図
- (4) 別業務の解析データ成果（令和8年9月以降に貸与可）

2) 受注者は、貸与品の棄損や紛失のないようにするとともに、作業終了後は速やかに返却しなければならない。なお、この業務以外に使用してはならない。

## 第7条 管理技術者

- 1) 受注者は契約締結後、速やかに管理技術者を定め、管理技術者選任届を提出しなければならない。
- 2) 管理技術者は、業務に関する技術上の管理を行うものとする。また、漏水調査業務の実施に際しては、地元対応等の指導及び教育を行うとともに、業務が適正に遂行されるよう管理及び監督をしなければならない。
- 3) 管理技術者は、第8条に規定する調査技師を兼ねることができるものとする。
- 4) 管理技術者は、漏水調査業務の履行にあたり、第8条に規定する調査技師の技術的資格保有者でなければならない。
- 5) 調査体制については、第21条で定める。

## 第8条 調査技師、調査助手

- 1) 調査技師は、漏水調査及び漏水防止に精通し、調査業務に関する統括、計画、立案、指導を行い、漏水調査に関する業務の実務経験7年以上を有する者
- 2) 調査助手は、漏水調査及び管路探知等の作業を習得し、実務経験1年以上を有する者

## 第9条 提出書類

受注者は、下記の関係書類を発注者が指定した様式により、速やかに提出しなければならない。

－着手時－

- |              |     |
|--------------|-----|
| (1) 管理技術者選任届 | 1 部 |
| (2) 工程表      | 1 部 |

(3) 業務委託着手通知書	1 部
(4) 身分証明書発行願い届	1 部
(5) 経歴書	1 部
(6) 貸与品借用願い届	1 部
(7) その他（監督員が指示する書類）	1 部

－完了時－

(1) 業務委託完了通知書	1 部
(2) しゅん工図書	1 部
(3) 成果品引渡書	1 部
(4) 身分証明書返却届	1 部
(5) その他（監督員が指示する書類）	1 部

#### 第 10 条 業務計画書

- 1) 受注者は、業務開始までに業務計画書を作成し、速やかに監督員に提出しなければならない。
- 2) 業務計画書は、下記の事項を記載するものとする。
  - (1) 業務内容（目的、概要等）
  - (2) 作業方法（調査の順序等）
  - (3) 工程表
  - (4) 業務組織計画表
  - (5) 使用機材一覧表
  - (6) 緊急連絡体制表
  - (7) 安全管理体制表
  - (8) その他（監督員が指示する書類）
- 3) 受注者は、業務計画書の内容を変更するときは、監督員に業務変更計画書を提出しなければならない。

#### 第 11 条 守秘義務

当該業務に関して業務上知り得た秘密を第三者に漏らしてはならない。このことは、契約の解除後及び契約の終了後においても同様である。

## 第12条 安全対策

- 1) 受注者は、業務の実施にあたり安全対策を行わなければならない。安全対策に係る保安施設等は、受注者の負担とする。
- 2) 受注者は、第三者に損害を与えたときは、賠償しなければならない。ただし、その損害の発生が発注者の責めに帰すべき理由による場合又は設計図書に定める場合は、この限りでない。
- 3) 受注者は、事故等が発生した場合速やかに監督員に報告しなければならない。

## 第13条 土地への立入り

- 1) 受注者は、地域住民とトラブルがないよう努めなければならない。
- 2) 業務の実施により、公有地又は私有地に立入るときは、あらかじめ土地占有者（関係者）にその目的を告げ、許可を得なければならない。
- 3) 受注者は、前項の土地の立入を行うときは、身分証明書及び腕章を携帯し、土地占有者（関係者）の請求にかかわらずこれを提示しなければならない。

## 第14条 関係機関への手続き

- 1) 受注者は、業務の実施による関係官庁等への必要な諸手続き及び交渉を行わなければならない。
- 2) 前項の手続き及び交渉をしたときは、速やかにその旨を監督員に連絡し、必要に応じて協議しなければならない。

## 第15条 報告

- 1) 受注者は、作業前に調査業務の地域及び内容を監督員に報告するものとし、作業後は、報告書を作成し提出しなければならない。
- 2) 受注者は、定期的に作業の進捗について報告しなければならない。
- 3) 受注者は、業務期間中に発見した漏水箇所が第20条第2項第1号に示す漏水可能性エリア内に該当する場合は発注者の指定するアプリケーションに調査結果を記録しなければならない。

## 第16条 成果品（業務報告書）の提出

- 1) 受注者は、調査業務が完了したときは、成果品（業務報告書）を提出しなけれ

ばならない。

2) 成果品（業務報告書）は、下記の事項を記載するものとする。

- (1) 業務内容（目的、概要等）
- (2) 作業方法（調査の順序等）
- (3) 調査結果
- (4) 考察（分析、提案等）
- (5) 漏水箇所集計表
- (6) 漏水箇所報告書
- (7) 漏水箇所全体図面
- (8) 作業日報
- (9) 作業写真（漏水状況写真を含む）

#### 第17条 業務の完了及び検査

- 1) 受注者は、調査業務完了後、第9条の書類を監督員に速やかに提出しなければならない。
- 2) 前項の定めによる通知を受けたときは、通知を受けた日から起算して10日以内に受注者の立会の上、検査を完了しなければならない。

#### 第18条 委託料の請求

受注者は、前条2項の検査に合格したときは、速やかに適法な請求書を発注者に提出しなければならない。なお、発注者は適法な請求書を受理した日から起算して30日以内に一括して委託料を支払うものとする。

#### 第19条 その他積算について

- 1) 本業務の積算については、水道施設維持管理業務委託積算要領（管路等管理業務個別委託編）（平成30年12月 日本水道協会）に準じて行い、適用単価については、特別な表記がないものに限り、令和8年度公共工事設計労務・資材単価（適用基準日令和8年4月1日 山口県）、令和7年度版建設機械等損料表（一般社団法人 日本建設機械施工協会）、令和7年度業務関係積算基準及び標準歩掛表（山口県）を使用するものとする。
- 2) 第2条第2項に係る業務の調査数量は、別業務の解析データ成果に基づき、発

注者と受注者協議の上変更を行う場合がある。

## 第2章 漏水調査業務

### 第1節 業務の範囲及び条件

#### 第20条 調査業務の範囲及び時期

- 1) 調査業務は、作業計画・現場下見調査・戸別音聴調査・路面音聴調査・弁栓音聴調査・漏水確認調査・成果品作成（報告書作成）の内容とする。
- 2) 第2条第2項に該当する調査においては下記の事項によるものとする。
  - (1) 調査範囲は、別業務で絞り込んだ漏水可能性エリアを基準とする。
  - (2) 調査開始時期は、別業務の解析データ成果を貸与する令和8年9月以降の予定としている。

#### 第21条 調査体制の条件

漏水調査にあたる1班の体制は、2名以上の体制で行うものとする。

### 第2節 調査方法

#### 第22条 作業計画

別業務解析データの貸与後、調査に先立ち、業務場所別に工区を割り、本仕様書、水道施設管理図を十分把握し、作業工程等の綿密な作業計画を作成する。

#### 第23条 現場下見調査

調査に先立ち、調査区域の管理図と現地の管路、弁、栓類の位置確認を行うものである。また、管種、埋設深度、地形及び調査作業の障害の有無も同時に確認し、調査対象となる水道施設全般を把握する。

#### 第24条 戸別音聴調査

- 1) 調査区域内の給水装置（止水栓・量水器等）を調査対象とし、音聴棒等を用い

て漏水音（漏水擬似音）を調査するものである。

2）調査時間は、午前8時30分から午後5時00分とする。

3）調査の履行確認は、300戸毎の調査状況写真を1枚程度、撮影すること。

#### 第25条 弁栓音聴調査

1）調査区域内の管路附属施設（仕切弁・消火栓等）を調査対象とし、音聴棒等を用いて漏水音（漏水擬似音）を調査するものである。また、鉄蓋等の開閉、及びガタツキ防止のための簡易清掃をしなければならない。

2）調査時間は、午前8時30分から午後5時00分とする。

3）調査の履行確認は、調査延長10km毎の調査状況写真を1枚程度、撮影すること。

#### 第26条 路面音聴調査

1）調査区域内の管路（配・給水管路）上の路面において、漏水探知器等を用いて漏水音（漏水擬似音）を調査するものである。

2）調査時間は、使用水、騒音、交通の影響の少ない午後10時00分から午前5時00分の夜間作業とする。

3）調査の履行確認は、調査延長10km毎の調査状況写真を1枚程度、撮影すること。

#### 第27条 漏水確認調査

1）音聴調査等により、発見した漏水音（漏水擬似音）の発生箇所を、ボーリングバー又は相関式漏水探知装置を用いて再調査し、漏水箇所を確定するものである。

2）調査後は、ボーリング孔に砂等を入れアスファルト舗装等は、ロードキャップ等で補修すること。

3）調査時間は、午前8時30分から午後5時00分とする。

4）調査の履行確認は、各調査箇所を確認状況写真を1枚程度、撮影すること。

5）調査により地下埋設物及び構造物等へ損傷を与えた場合は、直ちに関係機関に通報及び監督員に連絡し、補修しなければならない。また、損傷が受注者の過失によるものと認められる場合、受注者自らの負担で原形に復元しなければならない。